

伊東夏子関係田辺家資料(二)

——〈短冊の部〉翻刻・続——

田辺家文書を読む会

先に、調査報告四十一—二として、短冊二五六点を、翻刻・紹介したが、解説に示したように、これらは木管に収められていたものである。

今回、以上とは別に、夏子署名短冊四点（うち一点は表裏）、及び蓮月署名軸装短冊二点を、図版をあわせて報告する。これらのうち、夏子署名の四点は、ご所蔵の田辺明氏ご夫妻より寄託される際、樋口夏子（一葉）のものとして他の短冊とは別にして田辺（旧姓伊東）夏子の娘である母堂故田辺政子様より遺された、とのご説明を受けた経緯がある。前回報告の、伊東夏子のもと思われる短冊の図版と比べてご覧いただきたい。

先ず、1の「寄歌述懐」は、筑摩書房版『樋口一葉全集』第四卷（下）五五八頁「短冊・栞 22」〔注〕に「田辺政子氏所蔵。明治二十八年四月。この一枚は、山梨県東山梨郡大藤村に記念碑が建てられた際複製されたため、模造品も多く現存している。」とされているものの原本である。

次に、2、3の「忍恋」および無題の一首であるが、全集には対応する記述が見いだせない。3の短冊はかつて展示に提供されたことがある由で、その折りのものかと思われる紙が上部に貼られて残っている。これらについては、さらに後考を待ちたい。

また、4の「行路時雨」一首は、同じ『樋口一葉全集』第四卷（下）五九三頁「短冊・栞 54」〔注〕に、「現在発見されているものは、すべて模造品で、まだ真筆のものは現れていない。おそらく、これらも記念配布されたものである。明治二十七年十一月二十二日に行われた数詠の折りの作。」とあり、本短冊もその一つであろうかと考えられる。それぞれの歌については、脚注に筑摩書房版『樋口一葉全集』における関連事項等、必要な事項を添えておく。

蓮月署名の、5、6の二点は、いずれも軸装。幕末の歌人大田垣蓮月（一七九一〜一八七五）のもの。表面にはかなりの磨耗が見られる。

（文責 栗原敦）

寄歌述懐

1 敷島のうたのあらず田すきかへしむかしの春はたれかみすへき

夏子

忍恋

2 あふ事はよしやなしともかくはかりしのふこゝろをしらせてしかな

夏子

(無題)

3 (表) 霜をへてまたさかりなる白菊はまたれしよりも久しかりけり
猶

夏子

(裏) 霜をへて猶さかりなるしらさくはまちしほとより久しかりけり

夏子

行路時雨

4 玉はこの道つれにとはいはさりししくれに今日もあひてける哉

夏子

月

5 のに山にうかれく／＼てかへるさをねやまておくる秋のよの月

八十四蓮月

冬山家

6 ほしかきの軒にやせゆく山さとのよあらし寒くなりけるかな

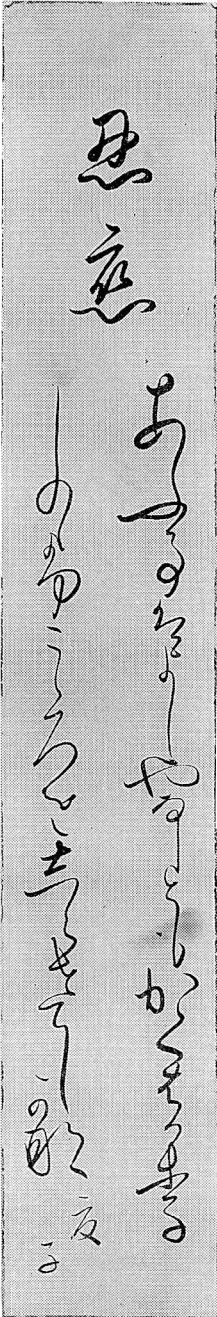
蓮月

1 「詠草41 ミヤギ野」II-38、「詠草補遺7-9」、「数詠10 かすよみ詠 写し」1(いずれも第四卷(中)所収)

3 (表) 傍点「また」を見せ消ちにし、「猶」と傍書。

4 「詠草 41 ミヤギ野」II-28、「数詠補遺」1-1(いずれも第四卷(中)所収)

2



1

